

令和 5 年度

# 「運営に関する計画」

(総括シート含む)

大阪市立依羅小学校

令和 6 年 3 月

## 大阪市立依羅小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校では、人権教育を基盤とし、児童一人一人に寄り添いながら教育活動を進めている。また、家庭との連携を密にとりながら、家庭背景を知り、保護者の思いに寄り添うことも大切にしている。

令和 4 年度より、大阪市教育振興基本計画が改訂されたことに伴い、本校では 3 つの最重要目標の達成に向けた校内組織を編成した。本市教育施策と本校の取組が連動し、PDCA サイクルを確立することができるようとした。

そこで、学校教育目標である「互いを認め合い、未来に向かってともに伸びようとする子の育成」に引き続き取り組むとともに

- ①自分や他の人を大切にする子
- ②すすんで学ぼうとする子
- ③自ら考え判断し行動する子

という 3 つのめざす子ども像に向かって、取組を進めていく。

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果では、各教科で大阪市平均に迫る結果となり、「学力向上支援チーム事業の重点支援校」としての取組の成果が表れている。

## 【令和 4 年度全国学力・学習状況調査 平均正答率】

	本校	大阪府	全国
国語	62%	64%	65. 6%
算数	59%	63%	63. 2%
理科	56%	60%	63. 3%

本校では、昨年度より「学力向上支援チーム事業の重点支援校」として、あらゆる方策を用いて、学力向上に向けた取組を進めている。学力向上に向けた取組の基盤となるのは、児童の生活リズムの確立や登校支援であると考えている。本校では、遅刻や欠席をする児童が多く見られる。また、登校してからも学習に集中できず、学習規律の定着に至っていないことも課題である。そのため、児童や家庭と信頼関係を築き、児童がよりよい学校生活を送ることができるよう、学校と家庭がともに考えていくことができるようにならなければならない。

また、本校では一昨年度より算数科の授業づくりについて研究を進めている。本校では、生活リズムが確立しておらず、基礎・基本の定着に課題が見られる児童が多い。学力向上に向け、教員の授業改善も必要であると考えている。今年度も引き続き算数科を研究教科とし、授業研究を進めながら、児童の学力向上につなげていく。

昨年度より、「学校いじめ防止基本方針」の見直しを中心に、いじめ対策の取組を重点的に進めている。学校として、いじめ事案にどのように取り組んでいくのかを、教職員全体で話し合い、具体的な取組方法や組織の在り方について、よりよい方法を模索している。

さらに、自尊感情を高める取組として、互いの発言や行動を認め合える集団づくりをしていく。昨年度は、「言葉遣い」に焦点をあて、全体講話や学年の取組などを進めていった。今年度は、「いじめ（いのち）について考える日」を起点とし、命の大切さについてより具体的な事例や講話をもとに取組を進めていく。今年度、本校は創立150周年を迎える。地域に支えられ、地域とともに歩んできた本校のこれまでを学校全体で振り返るとともに、児童の主体的な話し合いや集団活動を軸とした取組を進めていく。本校の課題である主体的に話し合い、自らの考えを自らの言葉で述べることについても、この取組を通して育んでいきたい。そのために、特別活動のより一層の充実をめざし、校内研修や授業公開に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度までに、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- 令和7年度までの校内調査において、学校で認知したいじめの解消した割合について、100%を維持する。
- 令和7年度までに、大阪市学力経年調査（3～6年生）や校内調査（1～6年生）における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合について90%以上を維持する。
- 令和7年度までに、小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度までの小学校学力経年調査における正答率7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も30%以下にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も30%以上にする。

## 大阪市学力経年調査（令和4年度）

（ ）内は令和3年度

4・5教科	7割未満（%）	2割以上（%）	算数	7割未満（%）	2割以上（%）
3年	19.8	22.2		19.8	24.7
4年	17.8（26.6）	22.2（18.1）		22.2（34.7）	31.0（18.9）
差	-8.8	+4.1		-12.5	+12.1
5年	9.0（24.4）	25.6（32.4）		20.5（26.5）	29.5（38.6）
差	-13.4	-6.8		-6.0	-9.1
6年	23.7（24.7）	21.1（23.5）		35.5（32.9）	30.3（26.8）
差	-1.0	-2.4		+2.6	+3.5

- 令和7年度までの小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。  
(令和4年度 77.5%)
- 令和7年度までに、小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和4年度 77.8%)
- 令和7年度までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。(令和4年度 70.4%)

令和4年度の小学校学力経年調査の平均正答率 ( ) 内は令和3年度

	国語	算数
3年生	62.0	69.0
対全国比 (%)	83.3	97.0
4年生	66.9 (64.2)	64.7 (58.5)
対全国比 (%)	92.9 (84.9) +8	94.7 (84.9) +9.8
5年生	70.8 (60.7)	61.7 (65.2)
対全国比 (%)	97.4 (87.6) +9.8	102.8 (96.9)
6年生	63.1 (63.8)	60.3 (58.1)
対全国比 (%)	84.7 (92.6) -7.9	84.2 (91.1) -6.9

全市共通目標に関わる大阪市小学校学力経年調査、児童質問紙の令和4年度の結果

	3年生	4年生	5年生	6年生
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (最も肯定的な回答をした割合)	53.1%	48.3%	24.1%	38.2%
外国語（英語）の勉強は好きですか。 (肯定的な回答をした児童の割合)	76.6%	92.1%	63.3%	79.0%
学校のきまりを守っていますか。 (肯定的な回答をした児童の割合)	92.6%	91.0%	96.2%	93.4%
学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。 (そう思う、どちらかといえばそう思うと回答した児童の割合)	59.3%	67.4%	56.9%	56.6%

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 令和7年度までの校内調査「ICT機器を使って、楽しく学習に取り組むことができましたか」の項目において、肯定的な回答の割合を95%以上にする。(令和4年度 92%)
- 令和7年度までの「学校園における働き方改革推進プラン」による教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の達成率を、以下に示す通りに維持する。
  - ・基準ⅰを満たす教員の割合を70%以上。
  - ・基準ⅱを満たす教員の割合を90%以上。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。  
令和4年度 3年生 81.5% 4年生 84.3% 5年生 82.3% 6年生 77.6%
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。  
(令和4年度 1%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。  
(令和4年度 0%)

#### 学校園の年度目標

- 令和5年度における長期欠席数（30日以上）の年度末数値を前年度より減少させる。  
(令和4年度 29名)
- 令和5年度の学校アンケートにおける「自分にはよいところや得意にしているものがあると思いますか」の項目で、肯定的評価を91%（前年度水準）以上にする。
- 令和5年度の学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」の項目で、肯定的評価をする児童の割合を95%（前年度水準）以上にする。（令和4年度 95%）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41%以上にする。（令和4年度 41%）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（令和4年度 80.0%）
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。（令和4年度 77.8%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。  
(令和4年度 70.4%)

### **学校園の年度目標**

- 研究教科である算数科の単元テスト 80 点未満の児童の割合を、前年度よりも減少させる。  
(令和 4 年度 28.8%)
- 令和 5 年度の学校アンケートにおける「学校の授業がよくわかりますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、93%（前年度水準）以上にする。  
(令和 4 年度 93.0%)
- 令和 5 年度の学校アンケートにおける「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、86%（前年度水準）以上にする。  
(令和 4 年度 86.0%)
- 令和 5 年度末の学校アンケートにおける「いつもハンカチはなからみを持っていますか」の項目について、肯定的評価を 87% 以上（前年度水準）にする。（令和 4 年度 87%）
- 令和 5 年度末の学校アンケートにおける「きちんとそうじをしていますか」の項目について肯定的評価を 97%（前年度水準）以上にする。（令和 4 年度 97%）
- 令和 5 年度末の学校アンケートにおける「体育の授業は楽しいですか」の項目において、肯定的評価を 93% 以上にする。（令和 4 年度 93%）

### **【学びを支える教育環境の充実】**

#### **全市共通目標（小学校）**

- デジタル教材を活用した学習を週に1回以上実施する。
- 週に1回の「ゆとりの日」、月に1回の「定時退勤日」を設定・実施する。

#### **学校園の年度目標**

- 令和5年度末の学校アンケートにおける「ICT機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか。」において肯定的評価を93パーセント以上にする。（令和4年度 92%）

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### **1-① 【安心・安全な教育の推進（人権教育）】**

いじめアンケートや相談システムについて、効果的に活用できた。小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対しては、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が、3年83.3%、4年81.0%、5年76.5%、6年77.2%となっている。これは、本校で定めた目標85%を下回っている。長期欠席児童については、昨年度29名から今年度33名と増加している。

今年度は、学習者用端末を活用したいじめアンケートの実施回数を昨年度の3回から5回に増やした。子どもたちの様子をこまめに把握することができ、個別の聞き取りや保護者との連携につなげることができた。

また、「いじめについて考える日」が今年度より「いじめ（いのち）について考える日」となったことを受け、全体講話や学年の取組でも、「いのち」に重点を置いた取組を行った。今年度の取組をきっかけに、系統立てて「いのち」について考える人権教育を追求していく必要があると考えている。

重点的に取り組んできた「言葉の大切さ」については、児童および教職員に浸透してきたと捉えている。しかしながら、人を傷つける言動がなくなったとはいはず、また、そうした言葉を見逃さないという教職員の感覚、姿勢も常に啓発、共有していく必要がある。

教職員研修において、地域の施設や人と連携して行うことができたのは大きな成果だと考えている。校区内の歴史や取組を知ることができたとともに、その後の連携した取組にもつなげることができた。

不登校については大きな課題である。本校がこれまで大切にしてきた、家庭訪問を軸とした子どもや家庭との連携を再確認しながら、そうした関わりに注力できるような業務の精選、学校の体制づくりを検討していく必要があると考えている。

### 1-② 【安心・安全な教育の推進（生活指導）】

本項目に関する学校アンケートの結果は以下の通りである。

- ・「学校のきまりを守っていますか」の項目で、肯定的評価をする児童の割合を 95%（前年度水準）以上にする。 $\Rightarrow 94\%$
- ・「自分から進んでいさつできていますか」の項目で、肯定的評価をする児童の割合を 90%（前年度水準）以上にする。 $\Rightarrow 88\%$

学校アンケートの結果については、高い水準を維持している。しかし、実際の子どもの様子からは、きまりを守っていない姿やいさつができていない姿も見受けられる。きまりやルールはなぜ必要なのか、必要であればどんな内容がのぞましいのかを、子どもたちが主体的に考えるようなしきけづくりを検討していかなければならない。また、教職員があいさつ等のコミュニケーションの手本となり、子どもたちや地域に示していくことが大切であると考えている。

### 2-① 【未来を切り拓く学力・体力の向上（学力）】

本項目に関する小学校学力経年調査や学校アンケートの結果は以下の通りである。

- ・「学級の友達との話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」（最も肯定的な「思う」） $\Rightarrow 41\%$ （目標 41%）
- ・「国語及び算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる」  
 $\Rightarrow$  4 年国語 (+3.6 ポイント) 4 年算数 (+1.8 ポイント)  
5 年国語 (-0.4 ポイント) 5 年算数 (-1.3 ポイント)  
6 年国語 (-2.6 ポイント) 6 年算数 (-1.8 ポイント)
- ・「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする $\Rightarrow 75\%$ （目標 80%）
- ・「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78% 以上にする $\Rightarrow 84\%$ （目標 78%）
- ・研究教科である算数科の単元テスト 80 点未満の児童の割合を、前年度よりも減少させる。（令和 4 年度 28.8% → 令和 5 年度 35.7%）
- ・学校アンケート「学校の授業はよくわかりますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、93% 以上にする。 $\Rightarrow 91\%$ （目標 93%）
- ・学校アンケート「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、86% 以上にする。 $\Rightarrow 82\%$ （目標 86%）

今年度は、従来取り組んでいた放課後学習（アフタースクール）に加え、5 年生対象にアフター 2 の取組もスタートした。学力向上支援チーム事業の重点支援校として、学びコラボレーターを中心に、学力向上に向けた個に応じた支援に力を入れている。また、ICT 機器の活用を充実させるため、授業研究や教職員研修などで研鑽を深めている。

## 2-②【未来を切り拓く学力・体力の向上（体力・保健・清掃）】

本項目に関する小学校学力経年調査および学校アンケートの結果は以下の通りである。

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」や「スポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を76%以上（前年度水準）にする。64.5%（目標76%）
- ・学校アンケート「いつもハンガチはなまきを持っていますか」の項目について肯定的評価を87%以上にする。 $\Rightarrow$ 83%（目標87%）
- ・学校アンケート「きちんとそうじをしていますか」の項目について肯定的評価を97%以上にする。 $\Rightarrow$ 97%（目標97%）
- ・学校アンケートにおける「体育の授業は楽しいですか」の項目において、肯定的評価を93%以上にする。 $\Rightarrow$ 93%（目標93%）

各月の生活目標を各学年の児童から啓発することで、子どもたちが自主的に目標に向けてがんばろうとする姿が多く見られる。一方で、当該月は意識できていても、次月以降に継続することに課題が見られるため、児童会を中心に年間の取組を視覚化するなどして、継続した意識付けにつなげていきたい。

運動に関するアンケート結果は目標に対して低い結果となっている。運動週間の取組は定着してきているため、ペア学年での取組や目標設定の工夫など、さらに内容を精査していく。また、運動に対する児童の意識は体育科の授業によっても大きく変化すると考えている。若手研修を中心に、体育科の授業づくりについても教職員どうしで深めていく必要があると考えている。

## 3【学びを支える教育環境の充実】

本項目に関する学校アンケートの結果は以下の通りである。

- ・学校アンケート「ＩＣＴ機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか」において、肯定的評価の割合を93%以上にする。 $\Rightarrow$ 92%（目標93%）

どの学年においても、デジタル教材を日々活用することができている。また、教職員どうしでよりよい使い方を共有しあう環境ができている。

「ゆとりの日」「定時退勤日」は計画通り設定・実施できている。しかし、時間に間に合わず業務を家に持ち帰ったり、気持ちにゆとりがもてなくなったりする様子も見られる。勤務時間削減の意識は今後も共有しつつ、業務を適切に精選していくことが求められる。また、資料を事前に配布し、各自確認したうえで会議に臨んだり、ＳＫＩＰを活用した情報共有をしたりするなど効率的な業務運営を進めていく必要がある。

関係諸機関との連携については、密にとることができている。保育園、幼稚園を招いての学校見学会など、コロナ以前に取り組んでいた取組の再開についても検討していく。

## 1—①【安心・安全な教育の推進（人権教育）】

大阪市立依羅小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育環境の実現】 【豊かな心の育成】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(令和5年度 79.5%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(今年度 1.7% 昨年度 1%)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※改善とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席日数の増</li> <li>2. ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた</li> <li>3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</li> </ol> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和5年度における長期欠席数（30日以上）の年度末数値を前年度より減少させる。</p> <p>○令和5年度の学校アンケートにおける「自分にはよいところや得意にしているものがあると思いますか」の項目で、肯定的評価を 91%（前年度水準）以上にする。(令和5年度 92%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1、いじめへの対応】</b></p> <p>各学期に実施するいじめアンケート調査や、学習者用端末を用いた相談システムなどで認知したいじめについて解消するようとする。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施する人権教育部会、生活指導部会、3担当者会（学力保障・特別支援教育・在日外国人教育などの会議で、児童について情報の交流を実施する。）</li> <li>・令和5年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。</li> </ul>	B

<p><b>取組内容②【基本的な方向2、人権を尊重する教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかまづくり（自尊感情や他者理解）を育む学習や取組を行う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で学期に1回（合計3回）以上、自尊感情を育む学習や取組の計画をし、実践する。</li> <li>・学校アンケートにおける「自分や友だちを大切にしていますか」の項目で、肯定評価を97%（前年度水準）以上にする。（令和5年度99%）</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向1、不登校への対応】</b></p> <p>8時40分までに登校していない児童の確認を行い、登校支援をする。</p> <p style="text-align: right;">(不登校や児童虐待などの課題への対応)</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8時40分までに登校していない児童を確認し、電話連絡または家庭訪問を行う。</li> <li>・昨年度の年間18日以上・30日以上の遅刻・欠席児童の把握をし、学期に1回（合計3回）人権教育部会で、対象児童について情報の交流をする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向、人権を尊重する教育の推進】</b></p> <p>研修会や会議での意見交流を通して、教職員の人権感覚を磨くとともに、人権教育を推進し、児童の人権感覚の育成を図る。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育に関する研修会を年間に3回以上行う。</li> <li>・人権教育啓発推進計画、人権教育年間計画を毎年計画し、実践する。また、人権教育部会で取組内容や子どもの様子等を交流する。</li> <li>・取り組んだ人権教育実践について、各学年年間1つ、取組内容をまとめ、教職員全体で交流する。</li> </ul>	A
<p><b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b></p> <p>①学習者用端末を活用することで、児童の状況を定期的に把握することができた。また、それをきっかけに児童と個別に話をする機会にもつながった。「いじめ（いのち）について考える日」の取組をきっかけに『いじめは絶対にいけないこと』『いじめを見逃さない』という児童の意識が高まった。</p> <p>②学校アンケートの数値も高く、児童の表情や言葉遣いからもあたたかい雰囲気が広がっていると認識している。また、教職員間で児童の様子を丁寧に共有できめ細やかな指導につなげることができた。しかし、場や状況によって子どもたちの見せる表情はさまざまであり、継続した指導や取組が必要である。</p> <p>③学年で協力しながら登校確認や登校支援を行っている。しかし、登校状況の改善には至っていない。</p> <p>④計画通り実施することができた。地域の方や海外からの研修生などからお話を聞く機会もあり、多くの学びとなった。</p>	

### 次年度への改善点

- ①学習者用端末によるアンケートにも慣れてきたため、いじめアンケートを月1回の実施にするなど方法を検討する。また、アンケート頼りになるのではなく、日々の関わりを大切にし、児童や家庭とのコミュニケーションを大切にしていく。発覚した事案に関しては、表面的な解決をもって終わりとするのではなく、相当期間の観察や指導を継続し、解消につなげる。
- ②全体的な取組の共有だけではなく、一人一人の児童に対してどんなアプローチをしたのかなど、具体的な取組内容を共有する。また、人権教育計画を精査し、より系統立てたものにしていく。
- ③今後も継続して登校確認や登校支援をしていくためには、学校の体制や電話連絡等の役割分担を精査する必要がある。また、家庭への啓発も含め、生活リズムや規範意識をもたせるような指導を丁寧に行っていく。児童の安全面を最優先に考え、連絡がない場合の早期確認を徹底する。
- ④今後も継続して取り組んでいく。その中で、参加方法や実施方法を精査し、有意義な研修になるよう検討を続ける。

## 1—②【安心・安全な教育の推進（生活指導）】

大阪市立依羅小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育環境の実現】 【豊かな心の育成】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和5年度の学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」の項目で、肯定的評価をする児童の割合を95%（前年度水準）以上にする。 (令和5年度 94%)</p> <p>○令和5年度の学校アンケートにおける「自分から進んでいさつできていますか」の項目で、肯定的評価をする児童の割合を90%（前年度水準）以上にする。 (令和5年度 88%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1、問題行動への対応】</b></p> <p>毎月の生活目標を設定し、日常的に指導を行う。 (安全教育の推進)</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の全校朝会で生活目標について確認する。また、学級においても生活目標について話し合ったり、ふりかえったりする時間を設ける。</li> <li>・各学年1回程度、各月の生活目標の担当を割り振り、目標達成に向けた取組を率先して行う。（発表・ポスター・見守り活動など）</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向1、問題行動への対応】</b></p> <p>「生活ふりかえり週間」を実施し、学校のきまりに関する啓発活動を行う。 (安全教育の推進)</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活ふりかえり週間」を学期に1回（合計3回）行う。</li> <li>・代表委員会を中心に、「あいさつ」や「名札の着用」、「廊下階段を歩く」などのよびかけ活動を行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</b></p> <p>児童会や委員会活動、たてわり班活動などを通して、集団育成に取り組む。 (話し合い活動の充実)</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童集会や学校行事、委員会発表などを含め、たてわり班活動を年15回以上実施す</li> </ul>	B

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケート「友だちと一緒に勉強や活動をすることは楽しいですか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を 95%（前年度水準）以上にする。 (令和 5 年度 95%)</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向 1、防災・減災教育への対応】</p> <p>避難訓練を計画・実施し、「火災」・「地震津波」・「不審者侵入」等のシチュエーションに落ち着いて対処できるようにする。</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を年に 3 回以上実施する。</li> <li>・避難訓練の取組内容について、教職員間で精査し、次年度の取組に活かす。</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<p>①各学年で生活目標の達成に向けた取組を計画・実施した。しかし、担当学年から学校全体に取組を広げるのは難しかった。ポスターや動画など繰り返し見られるものは効果的であったが、一人一人が意識をするまでには至っていない。</p> <p>②「生活ふりかえり週間」では、一人一人がそれぞれの観点を意識し、学校生活を送ることができた。しかし普段の学校生活で自分から進んでいきさつができる児童はごく少数であり、挨拶をしても元気な返事が返ってくることは少ない。名札の着用が出来ている児童が多い。廊下階段を歩くことに関してはできている場面も多いが、休み時間になると早く遊びたいという気持ちが勝ってしまい、走って移動する児童がいるのでまだ改善が必要である。</p> <p>③よさみ子どもフェスティバルや集会活動を通して、異学年交流が盛んに行われ、児童が友だちとともに関わり活動することができた。創立 150 周年記念行事では高学年児童を中心となり学校を盛り上げようとする姿が見られ、成功をおさめることができた。</p> <p>④学期に 1 回、年間 3 回の「火災」「地震津波」「不審者侵入」の避難訓練や教職員対象（さすまたの使い方や護身術など）の防犯研修を行うことで防災・防犯に対する意識の向上につながった。これまで不審者が入ってきたという想定で訓練を行っていたが、今年度については住吉警察署に依頼をし、不審者役を設定して防犯避難訓練を実施することができた。また、教職員研修を行い、避難訓練時の行動、連絡、手段、実施のタイミングについて意見を交わした。そうしたことにより教職員一人一人が自分の行動や役割を再確認する機会となり、非常時への備えを学んだ。児童や教職員の命を守ることにつながる実りある研修であった。</p>	
<b>次年度への改善点</b>	
<p>①朝会での生活目標の確認は全体として意識できるため継続していく必要がある。行事や学年の実態に応じて内容や時期を検討して取り組んでいく。また、学校全体として目標達成に向けた取組が出来るように発表やポスターだけではなく、児童会が中心となって各学年が行った取組の「見える化」を意識して、下足室などに掲示していくことで、一年間を通して意識できるようにする。</p> <p>②「いきさつ」「名札の着用」「廊下階段を歩く」の 3 点についての指導や啓発は継続しつつ、学校全体として取り組んでいく。生活ふりかえり週間では、代表委員会児童と共に呼びかけ活動を行うようにする。生活ふりかえり週間が終わった後も意識が継続できるよう取り組んでいく。</p> <p>③暑い時期の集会では工夫が必要であった。二学年ごとに交流したり teams を活用したりするなど活動の機会を増やせるよう試みる。また、大縄週間や○○週間などでもたてわり班やペア学年の取組を検討する。</p>	

④避難訓練の取組内容や時期について前年度から話し合うことでより良いものにしていく必要がある。また、校内の体制や役割など一人一人が4月の段階で理解、把握し意識を高める必要がある。また、避難訓練に関しても実施のタイミングを考え、実施方法を工夫し訓練していく。

## 2—①【未来を切り拓く学力・体力の向上（学力）】

大阪市立依羅小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（小学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 41%（前年度水準）以上にする。（令和5年度 41%）</li> <li>○小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%（前年度水準）以上にする。（令和5年度 75%）</li> <li>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78%（前年度水準）以上にする。（令和5年度 84%）</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究教科である算数科の単元テスト 80 点未満の児童の割合を、前年度よりも減少させる。</li> <li>○令和5年度の学校アンケートにおける「学校の授業はよくわかりますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、93%（前年度水準）以上にする。 (令和5年度 91%)</li> <li>○令和5年度の学校アンケートにおける「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」の項目において、肯定的評価をする児童の割合を、86%（前年度水準）以上にする。 (令和5年度 82%)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</b></p> <p>各学年が児童の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着を図り、児童一人一人に応じた指導や支援を行う。</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に 1 回（年間 25 回以上）、アフタースクール（放課後学習）を実施する。</li> <li>・算数の少人数学習や習熟度別学習、チームティーチング（TT）学習を取り入れた授業の計画を立て、実施する。</li> <li>・学校アンケートの項目について「算数の勉強はよくわかりますか。」の肯定的評価</li> </ul>	B

	を 89%（前年度水準）以上にする。（令和 5 年度 85%）	
取組内容②【基本的な方向 4、「主体的・対話的で深い学び」の推進】	児童に学習の課題意識を明確に持たせる授業を開く。その中で、子どもたちが意見を交流し合い、学習を深めることができるようとする。	B
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上のための授業改善に向けた校内研修を計 9 回（各学年 1 回研究授業および討議会、研修 3 回）以上行う。</li> <li>学校アンケートの項目について「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできていますか。」の肯定的評価を 81%（前年度水準）以上にする。（令和 5 年度 82%）</li> </ul>	
取組内容③【基本的な方向 4、「主体的・対話的で深い学び」の推進】	学力保障部会を中心に、児童の学力向上に向けた取組や、教職員の授業改善を図る。	B
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の出題内容、問題傾向の分析を行い、教職員の授業改善につなげる。</li> <li>全児童の単元テスト 80 点未満の児童の割合を過去 6 年間の平均割合よりも減少させる。→35.7%（過去 6 年間平均 37.5%）</li> </ul>	
取組内容④【基本的な方向 4、「主体的・対話的で深い学び」の推進】	児童が学びを実感できる体験活動の充実を図る。	B
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習や宿泊行事、出前授業等の中に体験活動を位置づけ、各学年、年 1 回以上実施する。</li> <li>学校アンケートについて「学校や学年の行事などの体験活動は楽しいですか」の項目で、肯定評価の割合を 96%（前年度水準）以上にする。（令和 5 年度 94%）</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①	アフタースクールの取組は、「学習の進度」「定着しにくい傾向にある単元」「児童の実態」などを考慮して、学年で検討しながら進めることができた。今年度から始まったアフター 2 では児童の自主性をより大切にしながら、学習の基礎基本の定着を進めることができた。	
②	計画通りに各学年の研究授業・研究討議会を行った。今年度は「深い学び」をテーマに研究を進めた。学習の中で問題と一人で向き合う時間や、友だちと対話し理解を深める時間を設定したことが、指標の達成につながった。	
③	小学校学力経年調査や全国学力・学習状況調査の出題内容、問題傾向の分析を行ったことで、児童に必要な力が何かを理解したうえで授業をすることができた。80 点未満の児童については、高学年が上記の数値より高い傾向にある。	
④	指標の 96% は達成できなかったが、94% と高い結果が出たことから、満足度の高い活動を行うことができたと考える。新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和された	

ことも大きいと考える。

次年度への改善点

- ① アフター2の取り組みも参考にしながら、アフターの実施方法や内容を見直していくことが必要である。参加する児童の幅を増やしながら、全体的な学力の底上げを図っていきたい。
- ② 話し合う活動は活発にできていたので、より児童が「できる。わかった。」となるような授業改善が必要である。「深い学び」について話した内容を次年度以降も活用していく。
- ③ 指標は達成しているが、昨年度よりは割合が高くなっている。そういう児童に対して個別で支援をしていくのか、アフタースクールへの参加を促すのか、学年の実態に応じて考えていく必要がある。
- ④ 授業時数との関わりも考慮しながら、今後も継続していく。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上（体力・保健・清掃）】

大阪市立依羅小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【健やかな体の育成】</b></p> <p><b>全市共通目標（小学校）</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を76%以上（前年度水準）にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和5年度末の学校アンケートにおける「いつもハンカチはなかみを持っていますか。」の項目について、肯定的評価を87%以上（前年度水準）にする。（令和5年度 83%）</p> <p>○令和5年度末の学校アンケートにおける「きちんとそうじをしていますか。」の項目について肯定的評価を97%（前年度水準）以上にする。（令和5年度 97%）</p> <p>○令和5年度末の学校アンケートにおける「体育の学習は楽しいですか。」の項目において、肯定的評価を93%（前年度水準）以上にする。（令和5年度 93%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向5、健康教育・食育の推進】</b></p> <p>ハンカチ・はなかみの携帯を励行し、各学級において点検活動等を行う。また、手洗いや健康に関する啓発活動を行う。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会が中心となって「手洗い週間」を学期に1回（合計3回）実施する。</li> <li>・ハンカチ・はなかみの携帯率を集計し、保健だよりやポスターなどの掲示物で周知して、目標達成に向けた取組を学期に1回（合計3回）行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向5、健康教育・食育の推進】</b></p> <p>すすんで掃除に取組、学校を大切にする児童を育てる。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーン委員会による校内トイレチェックを月1回以上行う。</li> <li>・「清掃週間」を学期に1回（合計3回）実施する。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向5、体力・運動能力向上のための取組】</b></p> <p>運動週間を企画、実施し、運動することの楽しさを実感できるようにする。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動委員会が中心となって、運動週間を年に2回以上実施し、目標達成に向けた取組</li> </ul>	

<p>を率先して行う。（ポスター・がんばりカード・お手本の動画など）</p> <p><b>取組内容④【基本的な方向 5、健康教育・食育の推進】</b></p> <p>保健指導や食に関する指導を行い、生涯にわたってよりよい健康生活や食生活を送ろうとする児童を育てる。</p>	<p>B</p>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年、年に2回以上の保健指導と食に関する指導を行う。</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<p>① 保健だよりやポスター等の掲示物は例年以上に工夫されていたが、ハンカチ・はなかみの携帯率は83%と前年より低い結果となった。手洗い週間の集計用紙は、3学期分が1枚に記録できるものになっており、前学期の自分と比べることができた。また、集計結果を保健室前に掲示したことによりこれからも携帯しようという気持ちが育成につながった。</p> <p>② トイレの周りにポスターやbingo等の視覚的に意識を高められる掲示物や使い方チェック等の取組をしたことできれいに使用しようという意識向上につながった。清掃週間のチェックカードは、3学期分が1枚に記録できるものを使用したことにより、前学期より良い結果にしようと頑張っている児童が多く見られた。</p> <p>③ 運動週間の期間を例年より長く設定したことにより、一人一人の運動量をしっかりと確保して取り組むことができた。普段外遊びの機会が少ない児童も運動する機会となったり、運動の楽しさを啓発したりすることができた。運動委員会による大縄跳びの跳び方のコツ動画がわかりやすく、やってみようという意欲につながった。</p> <p>④ 栄養指導は、年に2回の授業だけでなく、調理中の様子を撮影して見せたり、給食の材料や栽培委員会で育てた季節の野菜等を見せたりして児童が食に関する興味関心をもつことができるような取組を行うことができた。発育測定の前に養護教諭が保健指導を実施したことで児童が自分の体や心の成長と向き合い理解しようとする姿が見られた。</p>	
<b>次年度への改善点</b>	
<p>① 手洗いのタイミング（「休み時間後」「トイレの後」「給食前後」「図書の前」等）をそろえて掲示・指導する。実態として、毎日ハンカチ・はなかみを携帯できていない児童が多いと感じられる為、各学級でも日頃から点検や声かけを大切にし、携帯の必要性や大切さを学校からの配布物（学年・学校・保健など）やホームページ等でも発信し続けていく必要がある。</p> <p>② 清掃週間では、高学年と低学年が一緒に掃除をしたり、クリーン委員会が清掃の様子を撮影して紹介したりする等して取り組み方を検討する。また、清掃週間の結果を集計し、児童の意欲向上につなげていく必要がある。正しい清掃の仕方を学ぶ機会を増やしたり、トイレや特別教室等の特殊な場所には清掃の仕方を掲示したりしてより丁寧に清掃ができるようにする。</p> <p>③ 運動週間では、かけあしや大縄跳びだけでなく休み時間にできる新たな遊びを提案したり、いろいろな外遊びに触れたりする期間になるように取り組み方を検討していく。また運動することへの意欲が高まるように運動週間用のカードを準備する。運動委員会を中心に、年間を通しておすすめの遊びや運動の楽しさを発信していく必要がある。</p> <p>④ 今後も継続して学年の実態に応じた食に関する指導や保健指導を行っていく。給食委員会・保健委員会とも連携し、食や健康への関心が高まるような取組を続けていく。</p>	

### 3 【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立依羅小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【教育DXの推進】【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b>  全市共通目標(小学校)  ○デジタル教材を活用した学習を週に1回以上実施する。 ○週に1回の「ゆとりの日」、月に1回の「定時退勤日」を設定・実施する。	B
学校の年度目標  ○令和5年度末の学校アンケートにおける「ICT 機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか。」において肯定的評価を93パーセント以上にする。 (令和5年度 92%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、ICTを活用した教育の推進】  各学年に応じた授業デジタル教材を用いて、協同学習や自学自習等に取り組むことで児童のICT利用の習慣化を図る。	B
指標  ・低学年ではICT機器（デジタル教科書、動画教材等）を利用した学習、中学年は学習者用端末でデジタルドリル（navima等）を利用した復習、高学年は学習者用端末を利用した学習（情報検索、PowerPoint、SkyMenu等）を週3時間程度実施する。	
取組内容②【基本的な方向7、働き方改革の推進】  「ゆとりの日」については、18時までの退勤、「定時退勤日」については、17時15分までの退勤を守る。	B
指標  ・設定時刻までに退勤する。	
取組内容③【基本的な方向7、校内環境整備・安全確保】  各担当で日々の安全点検を行い、危険個所があった場合は迅速に修理・改善を行う。	B
指標  ・月に1回、安全点検表を用いた安全点検を行う。	
取組内容④【基本的な方向7、教育コミュニティづくりの推進】  幼保小、小小、小中連携や地域関係諸機関との連携を密にし、地域と一体となった	A

学校運営を行う。

指標

- ・人権教育主担が中心となり、地域関係諸施設や区役所、こども相談センターなどと連携を図る。
- ・人権教育主担が中心となり、幼保小連携、小小連携、小中連携を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①デジタルドリルで学習したり、Teams のファイル連携機能でデータを送受信したりするなど、様々な場面で活用することができた。また PowerPoint や Google スライドを使って調べたことを効果的に発表することもできた。しかし、全児童の内 70 %未満の児童しか毎日学習者用端末を活用することができていない。学習者端末を効果的に用いるために教師間で情報を共有する必要があると考える。
- ②設定時刻までの退勤については、概ねできているが、仕事を持ち帰っている行う教員がいることも事実である。放課後のゆとりある時間の確保ができなかった時期もあった。「ゆとりの日」や「定時退勤日」の取組が教育の充実につながる機会となっているかどうか、検討が必要である。
- ③中間報告以降についても安全点検表を用いた安全点検を計画的に実施することができた。また、修理・改善が必要なところは、管理作業員や事務職員と連携を図りながら迅速に行うことができた。
- ④新1年生を含め、児童の情報について丁寧に共有できている。また、必要に応じて関係諸機関とも連携がとれている。

次年度への改善点

- ①教員間でデジタルドリルの使い方や、効果的に学習に取り組むことができる学習サイトを共有していく。また、ネットワークの環境整備や学習者用端末のメンテナンスも進めていく。
- ②会議については充実したものにすることを前提としたうえで、会議時間や会議の在り方、会議実施の有無等について、教職員全体で再確認していく必要がある。同時に、業務の効率化や放課後のゆとりある時間の確保を図っていくことで、「ゆとりの日」や「定時退勤日」の効果につながっていくと考える。
- ③校内の老朽化しているところも含め、次年度についても、校内環境整備や安全確保について計画的に取り組んでいく。
- ④新型コロナウイルス感染症の影響で途絶えていた幼稚園・保育園の小学校見学の実施を検討する。また、取組や事案、地域行事など、全体で共有しきれていないこともある。全体で取組を進められるよう、迅速で丁寧な情報共有が必要である。